



第8回経皮投与製剤FGシンポジウム

動物種差やin vitro 試験で使用する膜の話題

第一部 座長 佐野友彦(花王)

- 製剤設計における種差の問題とその解決策について(菊池 寛 エーザイ)
- 製剤設計における動物種差の問題(藤堂浩明 城西大)
- MatTek社皮膚3次元モデルを用いた安全性・有用性評価(半田由希 クラボウ)



▲ 菊池 寛先生



▲ 藤堂浩明先生



▲ 半田由希先生



第一部総合討論の様子

新しい分析法

最近の経皮投与製剤を考える上で重要と思われる、(1)動物種差やin vitro 試験で使用する膜の話題、(2)新しい分析法、(3)将来の経皮投与製剤に向けた期待、について10名の多岐にわたる先生にご講演頂いた。

第二部 座長 道中康也(久光製薬)

- 放射光X線回折測定を用いた角層浸透過程におけるベシクルと角層の相互作用評価(内野智信 静岡県立大)
- ラマンイメージングによる皮膚浸透性の評価(坂田 修 コーセー)
- レオロジーと赤外分光を組み合わせた化粧品の官能評価(杉本清二 エム・アール・ソリューション)



▲ 内野智信先生



▲ 坂田 修先生



▲ 杉本清二先生



第二部総合討論の様子

シンポジウムは、三部構成(各部3~4名の講演+総合討論)の充実した内容で、大学・製薬企業・病院薬剤部・化粧品企業の方々を中心に149名の参加者があり、活発な討論が行われた。

将来の経皮 投与製剤に 向けた期待

第三部 座長 正木 仁(東京工科大)

- 食品による皮膚機能の改善(森藤雅史 明治)
- Web情報から見る経皮吸収を訴求した化粧品について(岡野由利 CIEL)
- 医薬品と化粧品・薬用化粧品の処方設計の違い(藤井まき子 日本大)
- 皮膚に適用する医薬品や化粧品の将来について考える(杉林堅次 城西大)



▲ 森藤雅史先生



▲ 岡野由利先生



▲ 藤井まき子先生



▲ 杉林堅次先生



第三部総合討論の様子

談話会の様子

